



米子市埋蔵文化財センターたより



第15号

2014年12月

越敷山古墳群の調査

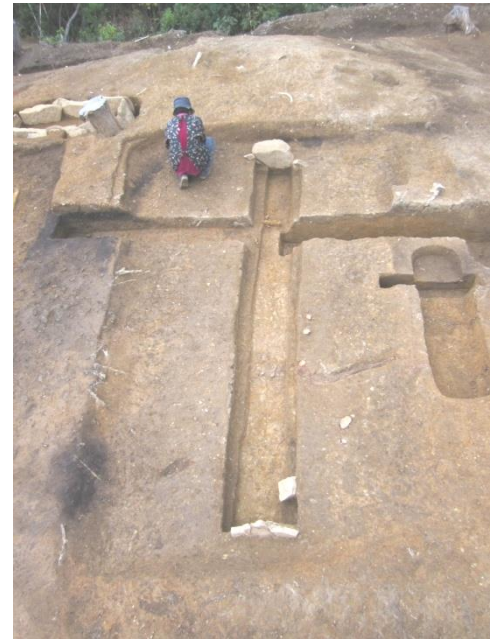
- 2面の青銅鏡が出土！ -



内行花紋鏡



珠紋鏡



71号墳木棺

越敷山古墳群の調査もいよいよ大詰めを迎え、古墳群の全体像が見えてきました。丘陵先端部に位置する越敷山71号墳は、古墳時代前期後半に築造された一辺15mの方墳で、中心の埋葬施設は長さ5mの木棺で小口に板状の石を用いていました。また、周囲の石棺からは人骨や管玉、鉄製品が出土しました。

71号墳の南にある79号墳も一辺13mの方墳で、副葬品は出土しませんでした。周溝内から出土した土器から、古墳時代中期に造られたものと考えられました。79号墳の中心の埋葬施設は石棺で、この石棺の周囲に8基の石蓋土壙墓があり、一つの墳丘に複数回にわたり追葬されたことがわかりました。

79号墳の東と西にある2基の方墳から、それぞれ1面ずつ鏡が出土しました。東側の古墳は一辺数m程度の方墳で、石棺が1基あり棺内の枕石の上に直径8cmの内行花紋鏡が置かれていました。西側の方墳も石棺が1基あり、棺内が赤く塗られていました。棺内から勾玉2点、管玉8点、小玉2点と直径7cmの珠紋鏡が出土し、この調査区で最も優れた副葬品を持っている古墳でした。

79号墳の南側には、小規模な円墳や周溝を持たない石蓋土壙墓が20基以上分布していました。これらの墓は子供用のものもあり、家族墓的な様相を呈しています。鳥取県内の古墳時代中期の墓制としては、類例の少ない珍しい古墳群と言えます。

越敷山古墳群の調査は、これから冬にかけて石棺や横穴式石室を解体し、最後に旧石器時代や縄文時代の遺構が無いか確認します。年度末まで、まだまだ調査は続きます。(佐伯)

発掘調査情報

川平鉄山跡 —奥日野のたたら遺跡の調査—

川平山谷川砂防工事に伴って、11月1日から28日の間に「川平鉄山跡」の緊急発掘調査を実施しました。本鉄山跡は、鳥取県日野郡江府町久連字下池田976他に所在する「たたら跡」で、鳥取県生産遺跡分布調査報告書（1984）に「近藤家の鉄山で大正年間に操業を停止。明治期の代表的な鉄山で『川平型』たたらの典型である。」と記されている遺跡です。

川平山谷川の両岸にたたらの高殿、鉄池、砂鉄置き場、大鍛冶場と考えられる地形が観察され、また山腹に金屋子社の跡も残っています。一帯の地表には大小の廃滓された鉄滓が多量に散布・堆積していました。調査地点は高石垣を積み、谷を埋めて造成された砂鉄置場の平場の一部とみられ、石垣の他に石組遺構2基、小屋基礎石列1基、石積土手状遺構1基を発見しました。また遺物は大量の鉄滓の他に、明治期の磁器や鉄鎌が数点検出されています。（小原）



左 川平鉄山跡平場石垣



右 石組遺構2

整理室たより

古墳の発掘調査では、箱式石棺などの埋葬施設から被葬者の人骨が出土することがあります。出土した人骨は、出土状況を人類学者の井上貴央先生の指導を受けながら写真や図面の記録を取って、新聞紙にくるんで当センターへ持ち帰り、陽の当たらない部屋でしばらく乾燥期間を置いて保管します。その後井上貴央先生に依頼して人骨の鑑定・調査を行っていただき、性別や年齢、特色などの所見原稿を報告書に掲載します。古墳の被葬者には申し訳ないのですが、人類学研究に役立っていただくこととなります。（小原）



越敷山古墳群の出土人骨

遺跡シリーズ15 尾高城跡 (おだかじょうせき)

米子市街地から東7kmの尾高集落東側の山麓端にある中世の城跡です。尾高は古くから伯耆西部の交通の要衝の地として栄え、戦国時代には毛利氏の尼子氏攻略の東の拠点として重要な位置を占っていました。城の始まりは室町末に山名氏の一族の行松氏の居城と伝えられ、戦国時代には毛利の杉原盛重が城主となり本格的に整備したようです。城跡は八つの郭を配置した連郭式の城館跡で土塁、空堀、切岸を巡らして二の丸・本丸・中の丸・天神丸・南大首・越の前・方形館跡、IV郭の八つの郭で構成されています。発掘調査で掘立柱建物跡、礎石建物跡、堀、溝、井戸、橋げた跡など城内施設の一部の遺構が確認されました。また中国や東南アジア等の貿易陶磁、備前、常滑、瀬戸・美濃等の国内陶磁器を始め、銭、煙管、鉛玉等の金属製品などが発見されています。これらの出土品から鎌倉時代後期から江戸時代初期まで使われた城館と考えられます。西伯耆の中世城跡の代表的な遺跡として米子市の指定史跡となっています。(小原)



南大首郭隅櫓掘立柱建物跡

コラムー古墳を掘る③ 後期古墳 ー石州府古墳群ー

1986年、米子平野の東部の佐陀川左岸の扇状地に所在する石州府古墳群が工場用地造成に伴い発掘調査されました。調査の結果、前方後円墳2基、円墳50基、方墳8基、石棺11基、石蓋土壙墓4基、土壙墓30基が発見され6世紀末から7世紀末にかけて造営された後期の大群集墳と判明しました。中でも1号墳は、直径40m高さ8mの米子平野最大の円墳で、埋葬施設も全長8.2m、高さ3mの巨大な横穴式石室です。古い時代に盗掘され、内部の副葬品は知られていませんが羨道部から馬具、椎頭太刀が発見されました。石州府古墳群中の盟主墳であり、古墳時代後期後半の佐陀川流域の首長墓と考えられます。古墳群の大半は工場地造成で失われましたが、石州府1号墳は米子市指定史跡として現地に保存されています。(小原)



1号墳の墳丘近景

センター・資料館日誌

- 10月6日 三刀屋史談会が福市考古資料館へ来館された。
- 10月7日 井上貴央先生が越敷山古墳群の人体調査指導に来館された。
- 10月10日 鳥取大学高田・中原先生越敷山古墳群の調査指導に来館された。
- 10月16日 静岡大学学生が卒論研究で来館された。



考古学講座風景

- 10月18日 淀江道草日和「転がせ!弥生めし」の炊飯体験事業をむきぼんだ遺跡公園で開催した。
- 10月19日 埋蔵文化財センター「第3回考古学講座・観音寺狼谷山遺跡」を開催した。
- 10月22日 福生東小学校の総合学習へ「日野川と地域の歴史について」出前講義を行った。
- 11月9日 埋蔵文化財センター「出土品学習教室」を開催した。
- 11月10日 元興寺文化財研究所が越敷山古墳出土櫛保存処理の受取りに来館した。
- 11月11日 石見銀山街道の会が福市考古資料館へ来館された。
- 11月19日 鳥取県史編纂室の湯村氏が資料調

査で来館された。

- 11月23日 安来市歴史文化講座へ「本城を移転せよ-吉川広家はなぜ月山から米子城へ-」出前講義を行った。



現地遺跡説明会風景

- 11月24日 越敷山古墳群の現地遺跡説明会を開催した。
- 12月1日 福市資料館企画展「発掘調査速報展」が終了した。
- 12月13日 埋蔵文化財センターで山陰中世土器検討会が開催された。

編集後記

足早に秋が過ぎて雪が降る季節となり、寒い日々がやってきました。発掘現場を抱えた職員は寒風について現場へ出かけて行きます。

今年もあとわずかとなり、時の早さを感じる今日この頃です。

発行日 平成26年12月15日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp

